

(提案書 様式①)

| 協働の機会提案書 (継続用)               |  |
|------------------------------|--|
| 2016 年 9 月 26 日              |  |
| 印西市長 板倉 正直 様                 |  |
| (登録者) 登録番号 23-004            |  |
| 名称 木下まち育て塾                   |  |
| 所在地 印西市木下                    |  |
| 代表者 伊藤 哲之 ㊞                  |  |
| 連絡先                          |  |
| 企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。      |  |
| 提案事業名                        | 印西市木下地区歴史講座  |
| 現状・課題<br>(前年度の実施を踏<br>まえた課題) | <p>(1)「寺子屋吉岡」は、平成 23 年 10 月 30 日に開講した市民向け歴史講座である。また、木下の歴史を学ぶと共に完全にニューアルなった吉岡家土蔵(明治 24 年建築)という、木下の歴史を今に伝える歴史的建造物の保存・活用の一環でもある。平成 24 年度より印西市との協働事業となり、この間、100 名以上の卒業生を送り出してきた。更には広く市民向け歴史講演会、バスツアー等を併せて開催し、千葉NT新住民をはじめとする市民の故郷意識の醸成に努めてきた。とりわけ近年の講演会、ツアーは極めて盛況であり、この中には少なからず卒業生が含まれている。</p> <p>(2)今回は内容及び講師たる塾生も 5 年という一区切りの段階に至っている点に鑑み、内容等を刷新しつつ、吉岡まちかど博物館にての学び、吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の保存・活用を継続していくものとする。</p> <p>(3)印西市の人口は、平成 28 年 4 月末現在は 95,947 人(内千葉NT居住者 57,573 人・60%)、寺子屋吉岡を市との協働事業とした平成 24 年同時期は 92,179 人(52,471 人・57%)である。4 年間に全体で 3,786 人、4%の人口増を見たが、NT地区は 5,102 人、10%増、NT地区外は逆に 1,334 人、3%の減となっており、この傾向は今後も続くものと思料。これら新住民へ地域の歴史を通しての故郷意識の醸成が必要なのである。</p> <p>(4)微力とは言え、印西市の基本計画にある「地域のもつ可能性を活かした魅力あるまちをつくる」及び「健やかな心と体を育み未来を拓く、まちをつくる」に対し、当塾及び印西市が継続して行う必要性が一層求められている。</p> |
| 提案理由                         | <p>(1)明治 14 年の次の新聞記事は当時の木下の占める位置が判明する興味深いものである。「(前略)茨城縣其他銚子小見川近邊の人は必ず前日瀛船に乗り(利根川通ひの川蒸氣船十艘余あり木下へ大概上陸)其夜木下へ上陸同所へ一泊して翌日歩行すること七里にして行徳新宿より亦々瀛船に乗り其日太陽ある中に出京するを得(後略)」(『千葉公報』明治 14 年 4 月 19 日)と述べ、利根川水運全盛期のこの時期、木下が下利根川並びに霞ヶ浦及び北浦沿岸諸都市と東京を結ぶ交通結節点であり、行き交う人々が多かった木下及び木下街道の繁昌振りをよく伝えている。</p> <p>(2)上記記事は、木下の歴史を理解するには利根川と江戸川を繋ぐ連水陸路たる木下街道、下利根川水運の歴史を学ぶ必要性を示唆している。木下の性格は純粹交通集落であり、街道と水運により諸都市と繋がることにより生業をたててきたという大きな特色がある。</p> <p>(3)今回は上記により木下河岸の歴史を市外から見ることにより、木下への新たな視点を得るべく市民と共に木下河岸から江戸・東京への道、木下街道及び行徳航路へと視野を拡げ、一層の理解を得ることを意図する。</p>  |

|  |   |
|--|---|
| <p>提案内容<br/>(前年度の実施を踏<br/>まえた改善内容)</p> | <p>寺子屋吉岡は、この間、地元、利根川水運の要衝、木下を中心に学んできた。今回は、木下について更なる理解を深めるべく、木下街道及び行徳航路に焦点をあて「木下河岸から小網町行徳河岸へ—市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道—」と題し</p> <p>①沿道、沿川関係8市区（印西市、白井市、鎌ヶ谷市、船橋市、市川市、江戸川区、江東区、中央区）の学芸員又は研究者の方々から吉岡まちかど博物館にて木下街道、行徳航路について学び、木下、木下街道への理解を深める。</p> <p>②木下街道、行徳航路に係る講演会を広く市民向けに開催する、又は行徳航路を体感するために市民と共に小名木川クルーズ等を行う。</p> <p>③木下街道約36kmを歩き、木下街道を体感する。</p> <p>④沿道、沿川の博物館を訪問し、更に理解を深め、交流する。</p> <p>⑤市民団体の活動ならではのものとして、沿道、沿川の市民団体と相互に交流し、木下へ誘う。（木下、木下河岸を知ってもらい、来街者を増やす）</p> <p>⑥寺子屋卒業生、受講者、木下まち育て塾及び印西市と共催により、平成31年度を目途に企画展「市民による木下街道展（仮称）」の開催を意図し、埋もれた歴史に光をあてる市民を育成し、生涯学習のきっかけを提供する。資料集、図録の刊行も視野に入れる。以上から印西市の生涯学習機能を補完する。</p>   |
| <p>貴団体の特性、協働<br/>で実施するメリット</p>         | <p>(1)木下まち育て塾は「志民」の集まりである。「志民」とは「文句ばかり言っ<br/>て何もしない「私民」でもなく、カヤの外で知らないふりをし続ける「死民」<br/>でもなく、自己責任で地域に積極的に働きかけ、自らも負担するココロザシあ<br/>る「志民」。そうした志民を集積していくことこそ、次世代へ地域の輝きを残<br/>していく方法だ」（「志民連いちのみや」）に拠っている。</p> <p>木下まち育て塾は、江戸期から明治期にかけ利根川水運で繁栄した木下河岸<br/>を中心に、今ではやや元気のない、印西市の中心市街地である木下・六軒を「何<br/>とか元気にしたい」を掲げ、具体的には</p> <p>①往時の面影を今に伝える蔵・町屋の保存と活用<br/>②地域への愛着と誇りを醸成する歴史の調査・研究、掘起こし<br/>③活性化へ繋ぐ市民ウォーク、市民公開講座等イベントの開催等を行っている<br/>30代から70代のサラリーマン、主婦等多様な市民からなる平成15年3月<br/>に結成したまちづくり市民団体である。前身は平成13年10月、印西市主催の<br/>「木下まち育て塾」。14年8月の解散後、有志が「志」と「名」を継承した。<br/>当塾のこれまでの実績は木下河岸の歴史紹介を兼ねた『吉岡まちかど博物館開<br/>館10周年記念誌』（平成26年）、吉岡まちかど博物館の改修の技術史ともいえ<br/>る『蔵 吉岡まちかど博物館10年史 2004～2014』（平成27年）を参照され<br/>たい。</p> <p>(2)協働のメリットとして、印西市という行政のみでは発想、行動に限界があ<br/>るが、木下まち育て塾という多様な市民からなる市民団体との協働により、よ<br/>り大きな成果が得られる。一方、木下まち育て塾は、一弱小市民団体であり、<br/>今回の如く多数の公共団体と連携するイベントの円滑な開催は困難である。印<br/>西市との協働はその点を大きく補完し、円滑に企画が実施でき、市民にもメリ<br/>ットがある。</p> |
| <p>継続実施により<br/>得られる効果及び今<br/>後の展望</p>  | <p>木下が銚田、小川等茨城県の霞ヶ浦及び北浦縁並びに銚子及び佐原等下利根<br/>川の諸都市から東京への交通結節点であったことなど現在では想像すら困難<br/>である。街道と水運で繋がる木下を理解するにはこれらを総合的に学ぶ必要が<br/>ある。これらを学ぶことにより木下、木下河岸へ新たな光を当てることができ、<br/>一層の理解が深まるものと思料する。今回は、先ず木下に繋がる木下街道、行<br/>徳航路を体系的に学ぶこととする。</p> <p>将来的には今回提案の木下街道から更に、水運で繋がる木下に焦点を当て、<br/>霞ヶ浦、北浦縁の茨城県及び佐原、銚子等千葉県等の諸都市との繋がりの中<br/>から木下、木下河岸を学んでいく構想を温めていきたい。</p> <p>上記の企画は木下街道、行徳航路、下利根川、霞ヶ浦水運の歴史を学ぶだけ<br/>ではなく、これら諸都市の市民、市民団体との交流、更にはこれらの学習を契<br/>機に木下、木下河岸の歴史を研究する市民のきっかけともなるものである。ま<br/>ちづくりは居住地への愛着と誇りなくしてはなしえないものであり、愛着と誇<br/>りは先ず地域の、先人の歴史を知ることである。今回の企画提案により上記の<br/>実現に寄与したいと考える。</p>  |